

皆さんのお子さんはどうですか？

ケニャッタ マックリントン

20年ほど前、私の国、アメリカに変化が起こり始めました。景気が悪くなり、家族を養うためにより多くのお金が必要になったのです。生活のレベルを保つために多くの家庭では共働きをしなければならなくなりました。両親が働いているので、子供たちは自分のことは自分でやらなければならなくなりました。子供たちは家の鍵を与えられ、学校が終わると家にいました。そして「かぎっこ」とよばれました。彼等は「大人のように振る舞いなさい。みしらぬ人の中に入れてはいけません。夕飯を作りなさい。宿題をしなさい。それが終わったら、親が帰るまで好きなことをしていなさい。」と教えられました。もし親が教えなければ、子供たちはへんな服を着て、どうしていいか分からなくなり、宿題さえもできなくなってしまったでしょう。学校では先生たちは生徒の行動や成績の変化で子供たちの問題に気付くことが出来ます。でも、親たちは子供たちを気にかける時間はありませんでした。若者の暴力行為、薬物の使用、妊娠などが増えてきました。テレビのコマーシャルにこの「鍵っ子」の問題を流すようになりました。「今、7時です皆さんの子供たちがどこにいるか知っていますか？」と。

皆さんのお子さんはどうですか。7時にどこにいるか知っていますか。私は足利の中学校で英語を教えて1年以上になります。その間、生徒の制服や髪型の変化で私が気付くほどです。きっと、皆さんも分かっていると思います。「腰パン」「ミニスカート」、「茶はつ、赤はつ。オレンジ、ピンクにゴールドはつ」。私が足利に来たころは、こういうことは高校生に限られていました。でも、最近では中学校1年生にも見られます。自分らしさを表現しようとしている生徒たちを悪いとは思いません。制服社会の中で、個性的になるのはきっとむずかしいに違いありません。ひょっとすると生徒たちはどれくらいまで許されるか先生たちを試しているのかもしれませんが。反抗するという事は、大人になる自然の過程です。でもそこには限度があるかと思います。一部の生徒の行動を見かけたとき、これはやりすぎかなと感じることがあります。

親に対しても子供が「うるせえ」とか「あっちいけよ」ということを耳にすることがあります。何を聞かれても彼等の答えは「しらねえ」「めんどくせえ」だそうです。テレビをつけ、深夜番組を見れば、いつでも流れています。今いったような行動は問題だと思います。今は小さいことかもしれませんが、大きなことに発展することは十分考えられます。アメリカの親たちはこの問題が国家的問題に発展するまで無視してきました。だから、皆さんにお聞きするのです。「皆さんのお子さんはどうですか」と。